

地理学教室便り(2012年度)

本誌「お茶の水地理」は、今回の52号より編集体制が変わり、地理学教室教員が編集を担当し、毎年刊行となります。それに伴い雑誌の内容も、地理学教室における教育・研究活動の成果を中心に構成することになりました。昨今大学に対して説明責任や社会貢献が求められており、教育・研究成果の社会に対する発信が重要性を増しています。このことを当教室においても重視し、本誌の編集方針を一新しました。さらに、情報の速報性を高め、アクセシビリティをより向上させるために、インターネットでの情報配信を重視します。本誌の記事は、本学の教育・研究成果コレクションTeaPot (URL <http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>) からも読むことができます。ご愛読の皆様におかれましては、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2012年度の地理学教室構成員を紹介します。専任教員は、学部地理学コースに水野(2012年度前期はサバティカル期間)、宮澤、長谷川の3名が、そしてグローバル文化学環に熊谷が、それぞれ在籍しています。さらに、地理学コースでは、本学シミュレーション科学教育研究センターの小田助教が協力教員として授業(地理学英書購読、都市と自然、地理学特殊講義Ⅲ)を担当しました。大学院博士前期(修士)課程では、地理環境学コースに学部地理学コースの3名に熊谷が加わり、博士後期課程では、4名全員がジェンダー学際研究専攻の教員です。博士前期課程では協力教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授、荒木准教授も加わり、専任教員とともに教育・研究指導を担当しています。地理学教室事務室のアカデミック・アシスタント(AA)は、昨年度に引き続き、古野、工藤が担当しています。本誌の刊行団体であるお茶の水地理学会の事務局を担当する須野原は、2012年度も総会・巡検・講演会・会誌・ニューズレター発送などの学会業務に加えて、卒業生として在校生の相談役も兼ねながら活動しました。

2012年度も、多くの非常勤講師の先生方にお世話になりました。学部のコア科目・LA科目(教養科目)において、大八木麻希、片岡久美、鈴木智恵子、吉岡由希子(以上、情報処理演習)、中川晋一(情報社会の安全保障)の各先生方、地理学コースの専門科目では、小堀昇(地図学)、中山大地(測量学)、朴倅玄(経済地理学)、池俊介(社会地理学)、早川裕弼(自然地理学、都市と自然)、齋藤元子(文化地理学)、渡辺満久(地理学特殊講義Ⅳ)、

森島済(環境地理学基礎演習)、若林芳樹(社会地理学演習Ⅰ)、目代邦康(自然地理学演習Ⅰ、地理学フィールドワークB)、矢部直人(地理情報システム演習Ⅱ)、佐々木リディア、西律子、山本理佳(以上、地理学フィールドワークB)、木村真冬(社会科教育法Ⅰ)、大学院では森本泉(環境文化論演習)の各先生方が担当しました。講師の先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が7名、3年生が15名、4年生が13名であり、来年度地理学コースへの配属を希望した1年生は15名でした。今年度卒業した9名の学生の進路は、民間企業(4名)、公務員(2名)、大学院進学(2名)、教員(1名)でした。学部地理学コースへの学生の進学と卒業後の進路状況はともに順調といえます。大学院博士前期課程では6名が、博士後期課程では1名が新たに入学し、院生数は上級生をあわせて20名でした。大学院への進学者は、本学の修了生に加えて、他大学の修了生、社会人となってから再び大学で学ぶことを希望する学生、海外からの留学生を含んでいます。博士前期課程では今年度2名が修了し、その進路は博士後期課程への進学などでした。博士後期課程では、三原昌巳、謝陽の2名がともに博士(社会科学)の学位を授与され、修了しました。なお三原は、本学人間文化創成科学研究所研究員に採用され、本学において引き続き研究活動に従事しています。両名の学位論文の要旨が本誌に掲載されていますのでご覧ください。

地理学教室構成員が2012年度に参加した主な研究プロジェクトには、学内共同研究「宮城・福島における避難・支援空間に関する地理学的研究」(代表:水野勲)、シミュレーション科学教育研究センター共同研究「大学キャンパスにおける将来の大規模震災時を想定した防災シミュレーション教材の開発」(代表:水野勲)があります(本誌「資料」欄の報告を参照)。それ以外にも教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については本学Webサイトの「研究者情報」をご覧ください。

さらに、東日本大震災に関しては2012年5月26日に開催された本学第5回ホームカミングデイにおいて、文教育学部、地理学コース、お茶の水地理学会の共催により、公開シンポジウム「震災を地理学から考える」を開催しました。地理学教室の元教授であり本学名誉教授の田宮兵衛先生、地理学コース協力教員の小田助教による講演

があり、参加者は70名を超える盛会でした。当日の記録は地理学教室のWebサイトよりご覧いただけます (URL <http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/share/HCD2012.html>)。

最後に、2012年度に実施した巡検の一覧と教室構成員が公表した主な研究成果を掲載します。7月に実施された長野県諏訪市での宿泊巡検の内容については、本誌の巡検報告をご覧ください。

構成員一同、地理学の教育・研究に微力ながら努力を続ける所存です。繰り返しになりますが、ご愛読の皆様におかれましては、これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(2012年度学部地理学コース主任 宮澤 仁)

2012年度実施の巡検 (一覧)

- 5月 地形と人間活動—お茶大周辺から椿山荘まで (長谷川・早川)
成城・田園調布巡検 (宮澤)
- 6月 グローバル化と都市—エスニックタウン池袋 (小田)
- 7月 長野県諏訪市巡検 (長谷川・水野)
武蔵野台地の緑を行く (西)
- 9月 森林保全、割り箸、スタディツアー (長谷川)
志賀高原巡検 (長谷川)
- 10月 武蔵野台地の自然と人間との関わり (佐々木)
吉祥寺巡検 (水野)
- 11月 表参道巡検 (山本)
- 12月 環境エコプロダクツ (長谷川)
- 1月 東京下町巡検 (水野)
高尾気象観測 (長谷川)
- 2月 松戸巡検 (目代)
多摩ニュータウン巡検 (宮澤)

2012年度に公表した主な研究成果 (一覧)

執筆物

- 熊谷圭知 2012. パプアニューギニア都市における「公共空間」の可能性—ポートモレスビーのセトルメント住民の日常生活実践から. 柄木田康之・須藤健一編著『オセアニアと公共圏—フィールドワークから見た重層性』昭和堂, 128-148.
- 熊谷圭知 2013. かかわりとしてのフィールドワーク: パプアニューギニアでの試行錯誤的实践から. *E-Journal GEO8*(1): 15-33.
- 謝 陽 2012. 木曾漆器産地における中国産製品の位置づけ—伝統工芸の再構築について. *E-journal*

GEO 7: 131-146.

- 長谷川直子 2012. 日本の事例 諏訪湖, 湖岸境界過程. 永田・熊谷・吉山編『温暖化の湖沼学』京都大学学術出版会 (分担), 33-35, 87-98.
- 三原昌巳 2012. 地方圏における高度医療設備の導入と受診者の「広域誘致」—福島県郡山市PET検診ツアーを事例として. *人文地理 64*: 278-295.
- 三浦尚子 2013. 障害者自立支援法への抵抗戦略—東京都U区の子どもの就学状況と教育問題. *統計 63*(4): 30-36.
- 宮澤 仁 2012. 外国人の子どもの就学状況と教育問題. *統計 63*(4): 30-36.
- 宮澤 仁 2012. 地域密着型サービス事業所による地域交流・連携の取り組み—長崎市の介護事業所を事例に. *地理学評論 85A*: 547-566.

口頭発表・講演

- 及川裕子 2013. 都市空間とアート—「墨東まち見世」プロジェクトを事例に—. 日本地理学会春季大会 (立正大学).
- 壁谷雅子 2012. セーフコミュニティ導入の地域社会への影響と活動単位としての通学区の有効性—神奈川県厚木市立清水小学校通学区を事例として. お茶の水地理学会総会 (お茶の水女子大学).
- 菊池春子ほか 2012. 東日本大震災の被災住民の体力と行動にかかわる地理学的研究 (予報)—岩手県宮古市の仮設団地を事例とした定量的計測. 東北地理学会春季大会 (仙台市).
- 菊池春子 2013. 東日本大震災による医療・福祉機能の被災と住民生活の変容—岩手県山田町の在宅療養患者世帯の実態調査から. 日本地理学会春季大会 (立正大学).
- 熊谷圭知 2012. 場所の生成とその論理—パプアニューギニア, ブラックウォーター, クラインビット村地誌構築のための覚書. 日本オセアニア学会第29回研究大会 (倉敷市芸文館).
- 熊谷圭知ほか 2013. 被災地でのフィールドワークに基づく大学実習の可能性と課題—陸前高田市での震災体験の聞き取りを通じて—. 日本地理学会春季大会 (立正大学).
- 酒井 慈 2013. 鹿児島県指宿市橋牟礼川遺跡・敷領遺跡における葉化石を用いた植生復元. 全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大学).
- 長谷川直子ほか 2013. 水の視点で捉えた大地の遺産選定とアウトプットの提案. 日本地理学会春季大会

(立正大学).

長谷川直子ほか 2012. 琵琶湖北湖東岸の沿岸から沖帯にかけての物理過程. 日本陸水学会77回大会. (名古屋大学).

長谷川直子ほか 2013. ヒノキ林における隣接個体指数と成長指数の提案. 日本森林学会第124回大会 (岩手大学).

Hasegawa, N. *et al* 2012. Density current from Ane River in Lake Biwa, ASLO 2012 /7/12 (Otsu)

三浦尚子 2013. 精神障害者グループホームが抱える事

業運営上の問題とその要因. 日本地理学会春季大会 少子高齢化と地域問題研究グループ例会 (立正大学).

水野 勲・長谷川直子・小田隆史 2013. 東日本大震災による福島県内100市町村間の連結構造の変容ー鉄道・バス、自家用車の最短パスのQ-分析ー. 日本地理学会春季大会 (立正大学).

宮澤 仁 2012. 大都市圏郊外における高齢化の進展と地域整備の課題. 日本地理学会秋季大会シンポジウム (神戸大学).